



はじめに

本市の中央部に広がる「見沼田圃」は、たんぼや畑、雑木林、河川や見沼代用水など豊かな田園風景が残り、首都圏に残された貴重な平地的大規模緑地空間です。農業生産の場としてはもちろんのこと、市民の憩いの場、自然とのふれあいの場、多様な野生生物の生息の場として貴重な空間となっています。

しかし近年、農業従事者の減少・高齢化や後継者不足など営農環境の変化により、農地の耕作放棄や荒地化が進行しています。これまでのような耕作者や土地所有者の方々による営農努力や、行政による土地利用規制や保全・整備事業等では、貴重な農地の保全が困難になりつつあります。そのため、これからの見沼田圃の保全・再生においては、従来の保全・整備だけでなく、農地を「活用」しながら保全するという新たな視点が必要となってきました。

この「見沼田圃基本計画」は、見沼田圃及び周辺地域が有する豊かな自然環境や美しい田園景観、水路などの歴史的農業施設、地域に伝わる歴史・伝統・文化など、地域が有する様々な有形・無形の地域資源を積極的に「活用」することで、農地・緑地の保全・再生や地域の活性化につなげる、というコンセプトによる地域づくりをめざしたものです。

この計画に基づいて、耕作者や周辺市民、行政、来訪者など多様な主体の関わりにより、地域資源の保全・発掘・整備等を推進し、見沼田圃全体を魅力ある田園空間として再生するとともに、それらの利活用による農業体験、散策・レクリエーション、自然観察、歴史学習、交流活動など多様なニーズに対応した取組を展開し、より多くの人に見沼田圃を訪れていただき、地域住民と来訪者との交流促進や地域の活性化を図ります。

平成 23 年 1 月

さいたま市長 清水 勇人

目次

序章 計画の概要	序-1
1. 計画策定の背景	序-1
2. 計画の目的	序-4
3. 計画の位置づけ	序-5
4. 計画対象区域	序-6
5. 計画策定の流れ	序-8
6. 計画の構成・概要	序-9
1章 見沼田圃の現況と課題	1-1
1. 見沼田圃の位置づけ	1-1
2. 見沼田圃の現況	1-4
3. 見沼田圃の課題	1-6
2章 計画の基本的な考え方	2-1
1. 見沼田圃づくりのテーマ・目標	2-1
2. 見沼田圃の将来像	2-3
3. 見沼田圃づくりの基本方針	2-8
3章 分野別施策	3-1
1. 土地利用：見沼田圃が有する多面的機能の保全・強化	3-3
2. 自然環境：貴重な緑地・水辺環境の保全・回復	3-6
3. 農：見沼田圃のメリットを活かした持続可能な農業の実現	3-12
4. 歴史・文化：見沼田圃の歴史・文化遺産の保全・伝承	3-15
5. 観光・交流：散策・レクリエーションの場としての整備・活用	3-16
6. 教育・市民活動：市民の憩いの場としての利活用の促進	3-20
4章 地区別施策	4-1
1. 市民の森エリア	4-2
2. 大宮公園エリア	4-6
3. 新都心東エリア	4-10
4. 中部エリア	4-14

5 . 七里・加田屋エリア	4-18
6 . トラスト保全1号地エリア	4-22
7 . 第1調節池エリア	4-26
8 . 見沼代用水西縁・芝川	4-30
9 . 見沼代用水東縁・加田屋川	4-34
10 . ふるさとエリア	4-38

5章 計画の推進に向けて 5-1

1 . 計画の推進に向けた組織・仕組みづくり	5-1
2 . アクションプランの策定に向けて	5-3